


美術教室にある洗い場。壁に染み付いた油彩絵具の跡が、油彩画の取り組みの歴史と伝統を物語っている。

 海城中学高等学校

“Liberal” & “Fair”

## 「新しい紳士」を育成する 海城イズムの学び

Tokyo  
•  
Kaijo  
Junior & Senior  
High School

海城は1891年（明治24年）に海軍兵学校の予備校として誕生。以来、大海原を駆け、世界と接触してきた先輩たちの気風と伝統を受け継ぎ、リベラルで公正な精神を持つ「新しい紳士」の育成を目指してきた。広い視野と多角的な視点を持ち、自由な発想と公正な目で事象を捉え、考える力。その力を培うために、海城では幅広い分野の様々な学習体験を通して学ぶ。



すべての学びに  
真正面から向き合う

海城の教育の根幹にあるのが、「リベラルな人間教育」と「個性ある学力の育成」。生徒一人ひとりの個性や資質を尊重し、伸び伸びと育てるという方針のもと、受験勉強だけに囚われたり、特定の教科に力点を置くこともなく、広範な学習や体験を通して幅広く学ぶというのが同校の基本だ。そのため、主要教科だけではなく、受験には直接関わることもない他教科にも真正面から向き合うとともに、人間力を育てるためのユニークな取り組みを行っている。

その代表例のひとつが美術の授業だ。同校の美術では絵画をはじめ塑像など幅広い取り組みを行い、生徒たちは作品作り挑戦している。取材で訪れた美術教室では、ブルーを着込んだ中1生がイーゼルをずらりと並び、キャンバスに向かって自画像の制作に取り掛かっていた。同校では水彩画ではなく、油絵具による油彩画を指導するのが美術教育の伝統。取り組み方も本格的だ。芸術科主任の岡田佳之教諭は、「油彩は画材が高価なのでスタートは大変だったのですが、やるからには、しっかりとやる。これは美術だけに限りません。海城では、どの教科でも同じ考えで取り組んでいます」と説明する。

高校では、美術は選択科目となるが、名画の模写や木彫りの制作など、内容はさらに深く、本格的になる。「高校になると生徒たちのレベルも上がり、あっと驚かされるような緻密で繊細な作品を創る生徒もいます。エネルギーがある証で



中1の美術の授業。真剣な表情で油彩画に取り組み



技術の授業ではネジを金槌で打ち込もうとしていた生徒のところに、教員が飛んできた。「ネジは、ドライバーを使ってねじ込むもの！」



創立者の古賀寛三郎氏(右)と2代目校長の吉見純海氏(左)の像が生徒たちを見守る



屋外には、クラスの仲間とグラウンドで思い切り身体を動かす

すね。私のような年齢ではどうい無理と思われるような作品を創ってくるんです」と岡田教諭。個性や感性を磨き、創造力や表現力を養うとされる美術だが、その一方で作品を完成させるまでにはやる気や根気など相当のエネルギーが必要になるという。「絵を描くという一見楽しそうに思われるかも知れませんが、どう描いていくか常に頭の中で考え、気持ちを集中させなければ絵は描けません。絵を描くことで、集中力が養われ、それが他の勉強にも繋がっているようです。絵が上手な子には学業が優秀な子が少なくありません」。

キャンバス前の生徒たちも、さながら美術学校に学ぶ画学生のように、真剣な表情で鉛筆を運ぶ。模写に取り組んでいた高1生の中には、放課後もキャンバスに向き付けていた生徒もいた。その一人に話すと、「集中できていううちに、できるだけ描いておきたいんです」という答えが返ってきた。

体験型学習プログラムで  
“新しい人間力”を育てる

海城では、美術をはじめ技術も家庭科もしっかりと学ぶ。カフェテリアの2階では調理実習が行われ、エプロン姿の生徒たちが楽しそうに調理に取り組んでいた。海城では、机にしがみつき、教科書の知識を学ぶことだけが学習ではない。その考えのもとで、「プロジェクト・

アドベンチャー(PA)」「ドラマ・エデュケーション(DE)」というユニークな体験型学習も取り入れている。

PAは、フィールドアスレチックのような数々の障害をチームで協力しながら乗り越えていくという学習プログラム。目的は、障害をクリアすることではなく、障害を乗り越えるためにチームの仲間と話し合い、協力し合うことにある。その中で、協働性やコミュニケーション能力、問題解決などを培っていくのである。

一方、DEでは、ドラマの役を演じ、仮想体験の中で、想像力や対話力、表現力やプレゼンテーション力を培っていく。講師にはプロの演出家や劇団俳優を招き、その指導のもとで、生徒たちが意見を話し合っってオリジナルのドラマを作成し、役を演じていく。

同校では、グローバル社会、共生社会が求められるコミュニケーション能力や協働能力、そして他者を認め受け入れるマインドを“新しい人間力”とし、その基礎力を獲得するためのプログラムとしてPA、DEを実施。併せて部活動や修学旅行・体育祭など学校生活の様々な機会を通して、生徒たちは人間力を高めていく。

同校は国立、私立、難関大へ多くの生徒を送り出し、有数の進学校として知られる。しかし、それは同校の教育が生み出したひとつの結果にしか過ぎない。幅広く学ぶ中で人間力を高めるという、同校の教育が目指すゴールは遙か先にある。



芸術科主任の岡田教諭